

# あきたの 地域医療通信

2016年3月 第24号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課  
医師確保対策室

## 専門性を持って地域医療に取り組む ～自治医科大学卒業医師に聞いた地域医療の魅力～

自治医科大学を卒業後、町立大森病院での地域医療従事を経て、現在、秋田大学医学部附属病院肝疾患相談センター長として、県内の肝疾患患者のために尽力されている後藤隆先生に、ご自身の地域医療の経験や肝疾患の現状についてお話を伺いました。

### Q1. 肝疾患を専門にしたきっかけを教えてください。

**A.** 私が大学を卒業した翌年(1989年)にC型肝炎ウイルス(以下HCV)が見つかり、そこから慢性肝炎や肝がんの機序が明らかになりました。

1992年には、インターフェロン治療が保険診療で行われるようになるなど、肝疾患医療が飛躍的に向上している印象があったため、肝臓って面白いなと思い、勉強を始めました。

地域勤務の期間に総合内科専門医、消化器病専門医、消化器内視鏡専門医を取得しました。ある日患者さんから「HPを見たら、先生は肝臓専門医ではないじゃないか。」と言われ、奮起して、少し遅れて肝臓専門医を取得しました。この患者さんからの一言が自分を成長させてくれたと思っています。

今は、新たな専門医制度が始まるところで、自分の経験はあまり参考にならないかもしれませんが、専門医を取得しようとすることは、必ず勤務のモチベーションとなり、自分を成長させてくれるものだと思います。課題を持ちながら地域で仕事をするのは非常に大事ですので地域医療を目指す若手医師たちもやる気があれば、地域勤務期間の症例や経験を用いて、自分の希望する診療分野の専門医を取得できるような制度となることを期待します。

### Q2. 県内の肝疾患の現状を教えてください。

**A.** 肝疾患医療は、日々進歩しており、特に肝硬変や肝がんの原因とされるHCVに対しては、副作用が多彩なインターフェロンを用いずに、インターフェロンフリーと呼ばれる内服薬だけの治療で、100%近くHCVを消失させることができるようになってきました。これらの薬剤は



秋田大学大学院医学系研究科  
肝胆膵内科学・神経内科学講座  
准教授

秋田大学医学部附属病院  
肝疾患相談センター長

後藤 隆 医師

### 【経歴】

秋田県出身。1988年に自治医科大学を卒業し、秋田大学医学部附属病院での研修を経て、町立大森病院に勤務。

地域医療従事期間終了後、秋田大学で学位を取得し、南カリフォルニア大学へ客員研究員として留学。その後、秋田大学医学部附属病院に戻り、2008年11月秋田大学大学院医学系研究科准教授、2010年より同院肝疾患相談センター長兼任。現在に至る。

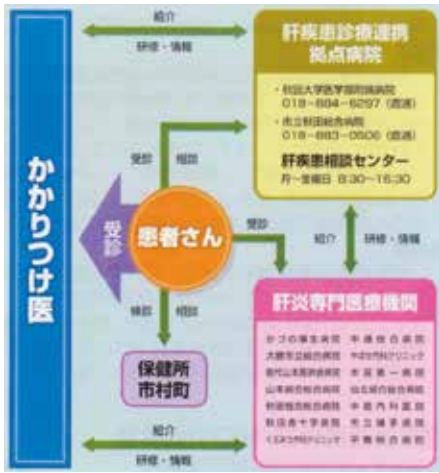
とても高額なのですが、2008年から始まった肝炎ウイルス治療費助成制度を用いると経済的負担をあまり気にしないで治療を受けることができます。

県内では、秋田大学医学部附属病院と市立秋田総合病院が肝疾患診療連携拠点病院となり、かかりつけ医や肝臓専門医がいる専門医療機関、県や保健所と協力・連携をして、最新治療の情報提供、適切な治療の推進、メディカルの研修等を行っています。

その効果もあり、本県の人口10万人対年齢調整肝がん死亡率は、2012年では、全国最下位となるなど、肝がんの予防・治療に対しては、県を挙げて行い成果を生んでいるという自負があります。

これからは、さらに県内の医療の均てん化をはかり、肝がん撲滅を目指して、HCVの感染者をさらに減らすように頑張っていきたいと考えております。





秋田県における肝炎診療ネットワーク

### Q3. 地域勤務で大変だったこと、良かったことはありますか。

A. 地域勤務では、6年間、町立大森病院に勤務しましたが、現在の大森病院と違い、医療機器も十分ではなく、また、消化

器外科医もいなかったもので、専門的な診療や手術が必要な症例は、地域の中核病院である市立横手病院、平鹿総合病院、仙北組合総合病院などに紹介していました。その際には、中核病院の先生や自治医科大学の先輩によく相談に乗ってもらいました。その人脈や間柄が、現在でも仕事をしている上で、大変役に立っています。

また、その当時の大森病院は、常勤医師が院長を含めて4名と小さな病院ではありましたが、その分、看護師、薬剤師、放射線技師や検査技師などのコメディカルスタッフや町の保健婦さん達との距離も近かったもので、和気藹々と仕事することができました。医師ひとりでは限られているけれども、「チーム医療」と

してみんなで協力して医療にあたるのが大事だということを知ることができたのは、非常に良かったと思っています。

### Q4. 地域医療を目指す若手医師・医学生へメッセージをお願いします。

A. 地域医療では、総合医が求められると言われていますが、自分の興味や得意分野を考慮した上で、専門性を持っていた方がいいと思います。プライマリケアや初期診療は、非常に大事ですし、医師としての当然必要なことだと思いますが、それだけでなく何か一つでも専門を持って、その分野について深く勉強することも重要だと思います。秋田県内の病院では、症例が豊富にあり、指導医も親身になってくれるので、自分の得意分野を伸ばすことのできる環境にあると思います。

また、これから一定期間、地域医療に従事することになる地域卒や自治医科大学の卒業医師は、どうしても他の医師と比較して、研修が遅くなることを不安に感じることもあるかもしれません。

しかし、私も地域医療に従事した後に学位を取得したり、海外留学を経験したりするなど、年数が経つとあまりはじめの頃の研修の差は感じなくなっていました。自分の目標や課題を設定して、その時にやらなければいけないことをしっかりやっていたら、医師として必ず成長できると思います。

## セミナー報告

### 医療関係者が全国初のイクボス宣言! ~秋田県医師会主催~

1月9日(土)にイクボスセミナーが開催され、秋田県医師会長、秋田大学医学部長、秋田大学医学部附属病院長など多数の医療関係者が揃ってイクボス宣言をされました!

「イクボス」とは、職場で共に働く部下・スタッフのワークライフバランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織も結果を出しつつ、自らの仕事と私生活を楽しむことができる上司のことを指します。

ファザーリングジャパンの安藤哲也さんからは①父親が変わると社会が変わる。②組織全体で働き方の見直しをする必要がある、というお話がありました。

今後は育児のみならず、介護や病気など時間的制約のある医療人が増えることが予想されています。すべての医療職がプロフェッショナルとして自立し、多様な価値観を認めあい幸せに働けるように、全員で考えていく必要があります。



秋田県医療人のトップらが、医療業界全国初の「イクボス宣言」

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先(団体名/電話/FAX)	
5月	14日(土)	第7回東北シミュレーション医学教育研究会	医学教育・シミュレーション教育に関わる全ての医療従事者	秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センター(秋田市)	秋田大学医学部 総合地域医療推進学講座 TEL&FAX:018-884-6226 MAIL:commed@med.akita-u.ac.jp
	29日(日)	eレジフェア2016 in 東京	医学生	東京ドームシティプリズムホール(東京都文京区)	
6月	24日(金)~25日(土)	医師臨床研修指導医ワークショップ	医師・研修医をサポートするスタッフ	サンルーラル大潟(南秋田郡大潟村)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
7月	3日(日)	レジナビフェア2016 大坂	医学生	インテックス大阪(大阪府大阪市)	
	17日(日)	レジナビフェア2016 東京	医学生	東京ビッグサイト(東京都江東区)	

イベントカレンダー



# 修学資金・研修資金のお知らせ

秋田県では、将来、県内の公的医療機関等において医師として地域医療に従事しようとする医学生、大学院生及び研修医に対し、修学資金・研修資金を貸与しています。

平成28年度の募集については、医師確保対策室あてお問い合わせください。

項目/区分	医学生修学資金(市町村振興枠)	大学院生修学資金	研修医研修資金
貸与対象者	・医学生 ※公立私立、学年、出身地は問わず。	・大学院生 ※公立私立、学年、出身地は問わず。	・臨床研修医又は専門研修医
貸与額	・月額15万円(自宅通学者は10万円) ・入学相当額(1年生に限る)	・月額30万円 ・入学相当額(1年生に限る)	・月額20万円
貸与期間	・大学卒業まで(最長6年間)	・大学院修了まで (最長4年間)	・研修修了まで(臨床研修は最長2年間、専門研修は最長3年間)
返還免除要件【勤務先】	・大学卒業後、1年6ヶ月以内に医師免許を取得し、その後直ちに、県内の公的医療機関等に勤務 ・返還免除要件となる勤務期間のうちの半分を、知事が指定する公的医療機関等で勤務 ・知事指定勤務先は、自治体病院・診療所が優先(ただし診療所の勤務にあつては1年を限度とする)	・大学院又は研修修了後、直ちに知事が指定する公的医療機関等に勤務	
返還免除要件【診療科】	・限定なし	・知事が別に定める診療科(産婦人科、小児科、麻酔科、精神科、外科、循環器内科、消化器内科) 【専門研修医のみ上記診療科及び総合診療】	
返還免除要件【勤務期間】	・貸与期間の1.5倍の期間	・貸与期間と同じ期間	

## 秋田大学医局紹介

### 秋田大学医学部 神経運動器学講座 精神科学分野(精神科)

「精神科」と聞くと、皆さんはどのようなイメージをお持ちでしょうか。「心身一体」という言葉にもあるように、医学を語る上で、精神科の関わりは非常に密接です。当教室では、過眠症の研究が盛んで、日本で唯一のナルコレプシーの確定診断のための髄液オレキシンの測定を行っています。また、悪性緊張病(致死性緊張病)として精神科で治療が行われてきた病態と酷似する抗NMDA受容体抗体脳炎の研究、治療抵抗性の精神科疾患に対する修正型電気けいれん療法やクロザピン治療、昨今の秋田を語る上では欠かせない認知症の専門外来など、特色ある医療を展開しています。

21世紀は脳の時代と言われており、脳は最後に残った未知の臓器です。精神疾患の原因はまだまだ分からないも



のが多いですが、若手からベテランまで、和やかな雰囲気、熱心に臨床、研究へ取り組んでおります。学生諸君、研修医の皆さん、興味を持たれた方はぜひ気軽に下記まで連絡をください。

#### 問い合わせ先

秋田大学医学部 神経運動器学講座

卒後臨床研修委員 成田恵理子

e-mail : e\_narita@med.akita-u.ac.jp

Tel : 018-884-6122

HP : <http://www.med.akita-u.ac.jp/~seisin/>



# 指導医メッセージ



大曲厚生医療センター  
呼吸器外科科長  
中川 拓 先生



平成26年5月に新築移転、仙北組合総合病院から大曲厚生医療センターに改称しました。大曲駅前で、バスターミナルも隣接しており交通の便は極めて良好です。大曲・仙北医療圏は、東京都に匹敵する面積におよそ14万人が住んでいます。当院は、救急搬送患者数・時間外救急患者数とも県内2番目に多く受け入れている地域中核病院です。屋上にはヘリ

ポートが設置され、県内初の救急ワークステーションを開設し、常駐する救急隊員の教育も担っています。また、がん診療連携拠点病院として、診断から治療まで最先端の治療を行っておりますが、県内で2番目となるがん緩和ケア病棟が設置されたことにより一貫したがん医療を提供しています。

初期研修医にはまず救急患者への初期対応とcommon diseaseの基本診療を身につけてもらうことを目標に、熱意をもった各科指導医が教育にあたっています。2年目からは将来の専攻志望科を中心に診療能力の向上に努めてもらいます。熱い先輩研修医達も揃っており、屋根瓦式で研修全般をサポートします。希望者には北米型救急で有名な東京ベイ・浦安市川医療センターで1～2ヵ月の救急研修が可能です。

交通アクセスは抜群、美しい山々に囲まれ、趣味やスポーツなどアフターも充実しています。「毎月花火が打ち上がる街、大曲」でぜひ一緒に働いてみませんか。

## 研修医メッセージ

大館市立総合病院  
吉田 太郎 先生  
(弘前大学・岩手県出身)



私は岩手県盛岡市出身で弘前大学を卒業しましたが、縁あって大館の地で卒後初期研修をさせて頂く事になりました。

当院は大館・鹿角医療圏の医療の中心を担う中核病院の一つであり、様々な症例が集まります。風邪、めまいなど一般的な症状を訴えて受診される方から、心筋梗塞、脳梗塞、消化管出血など重篤な患者さんまで、幅広く症例を経験させて頂いて貰えます。指導医のバックアップの下で色々な

手技にも挑戦させて頂いて貰える為、実践力も身につくのも魅力の一つです。月に4回の全科当直で様々な症例を経験できる上に、救急研修として千葉北総病院で一ヵ月三次救急を重点的に学ぶ事もでき、総合力を身に付けられる研修だと胸を張ってお勧めできます。

しっかり研修に取り組める一方で、当直明けはお休みとさせて貰える事になっておりオンオフがはっきりしているのも良い所です。休日は時間が空いた研修医でキャンプに行くなど、本当に充実した研修生活を送らせて貰っています。

大館の魅力は、こんな短いスペースにはとてもまとめられそうにもありません。研修先を迷っているあなた、是非一度当院に見学に来てみませんか？いつでもお待ちしております！



## 市立田沢湖病院

〒014-1201 仙北市田沢湖生保内字浮世坂17-1  
TEL: 0187-43-1131 HP: <http://www.hana.or.jp/~thos/>

仙北市は、人口約2万8千人、秋田県の東部中央に位置し、岩手県と隣接している地域で、交通アクセスの利便性に加え、水深日本一の田沢湖、秋田駒ヶ岳、温泉や武家屋敷など自然環境と観光資源に恵まれた滞在型観光地です。

当院は、平成15年6月に新築移転し、診療科は9科、病床数は一般60床、訪問診療や夕暮れ診療など仙北市田沢湖地区の地域医療を担っています。また平成21年1月からは障がい者施設等一般病棟となり運営しています。

現在、県内と首都圏の4基幹研修病院の初期臨床研修プログラムにおける地域医療分野で協力病院として研修医を受け入れ、地域医療の現状と実践を学んでいただいています。

当院は、病院と歯科診療所、健康増進センターを併設した田沢湖地区の医療・福祉の拠点となる複合施設となっており、病院機能としてだけでなく、地域の住民が集う“コミュニティホスピタル”を目指しています。

### … お問い合わせ先 …

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号  
E-mail: [ishikakuho@pref.akita.lg.jp](mailto:ishikakuho@pref.akita.lg.jp) Tel. 018-860-1410